

望ましい勤労観、職業観の育成を目指した本校の取組み

— 就業体験を通しての生徒の変容 —

福島県立猪苗代高等学校 商業科

1 はじめに

本校の所在する猪苗代町は、福島県のほぼ中央に位置し、磐梯山や猪苗代湖をはじめ自然に恵まれた東北有数の観光リゾート地であり、猪苗代・裏磐梯地区だけでも200を超える宿泊施設を有している。

本校は、猪苗代町で唯一の高等学校であり、現在生徒の8割は町内中学校の出身である。その一方、隣接する会津若松市と郡山市へは磐越西線によって通学可能な地域となっている。

昭和23年、高等学校として独立し、家政科、農業科及び定時制が併設されたこともあったが、昭和55年度より普通科のみの募集となった。その後、平成6年に地元のホテルや旅館業からの要望に応えるかたちで、国際観光科が設置された。平成20年度より募集定員は普通科40名、国際観光科40名、計80名となった。

今回紹介させていただくのは、地域に支えられながら、昨年度まで文部科学省の研究指定を受け展開した「デュアルシステム」事業を中心とした国際観光科の取組みである。



2 文部科学省指定「日本版デュアルシステム」の取組み（平成17～19年度）

「日本版デュアルシステム」とは、若年者向けの実践的な教育・職業能力開発を目的として、企業での実習と学校での講義等の教育を組合せて実施することにより若者を一人前の職業人に育てるしくみのことをいう。本校は平成17年度から3年間文部科学省よりこの研究指定を受けて、国際観光科の生徒に対して、次のような事業を展開してきた。

(1) 組織

上部組織として「運営委員会」、その実行部隊として「実行委員会」がある。コーディネータ組織（大学、公共職業安定所、町商工会・観光協会、県・町教育委員会等）と受入企業、学校の三者で構成されており、多方面から指導助言をいただけること、実習先の確保がスムーズにいったことなど、関係機関との連携が事業の成功に結びついた。

(2) 実施内容

本校では、平成13年から2学年全員が3日間のインターンシップを実施していたが、デュアルシステムでの就業体験は単に期間が長いというだけではなく、質的に全く異なるものといえる。それは、デュアルシステムは授業（学校設定科目「観光Ⅰ」「観光Ⅱ」「観光実践」）の一環として行われ、就業体験前後に十分な指導を行うことができるためである。

実習前には、ビジネスマナーや観光産業の基礎知識等について授業を行う。次の3で紹介する非常勤講師による授業もあり、実践に近い授業を行うことが可能となっている。また、実習先での自己紹介のための履歴書を作成し、実習直前には、守秘義務、職場での責任などの最終的な確認事項を十分に行う。実習中は業務日誌を記入し、実習先からの指導助言をいただく。実習後は、実習で学んだことを報告書にまとめ、報告会を実施する。3年間実習を継続することから、前年度（前回）の実習の反省や改善を次に活かすことができ、実習がより一層深まる。

本校での主な実習先は地元のホテルや旅館で、平成19年度は22社の企業に受け入れていただいた。受入先からの「お客様のいない昼間の時間帯での就業体験では本当の意味での経験にならない」という意見を受け、実際に忙しい早朝や夜の時間帯での実習をさせていただくこととなった。集中して1週間（うち5日間）の実習を行い、受入先によっては宿泊を伴うこともあった。平成17年度入学生は、3年間で計6週間の就業体験をすることができた。

① 1年生 ホテル実習 1週間×1回

1年生はホテルにおける実習とし、主に裏方の仕事を体験することによって、サービス業の本質を知ること为目标とした。また、こうした仕事があって初めてサービスが商品となることを理解させ、このことは、どんな仕事にも通じる大切なことであることに気づかせることを指導のポイントとしている。あいさつや時間を守ることの大切さなど基本的なことについて、体験から学ぶことも大切な目標である。

② 2年生 企業実習 1週間×3回

2年生は観光関連産業等において、基本的なビジネスマナー、接客技術の習得・向上を目標としている。期間も1年次に比べると非常に多くなるため、生徒自身の意欲・向上心が必要となる。実習先で戦力として頼りにされるケースもあり、生徒もそれに応えるべく意欲的に参加する姿が見られた。

③ 3年生 企業実習 1週間×2回

3年生は、自己の適性・進路についてよく考え、希望業種での実習を体験し、進路選択に役立てることを目的としている。1・2年と経験を重ねてきていることもあり、実習先からも高い評価をいただいた生徒が多かった。また、進路選択を目の前に控えた時期での実習ということもあり、自分としっかり向き合い、進路決定に役立てることができた。



④ 企業実習の具体例・・・5日間の日程のうちの3日間（2年生・ホテルでの実習）

日程	研修内容
1日目	10：00 出勤。オリエンテーション後、調理部にて厨房清掃。2時間休憩。 14：00 より調理部（洋食）にて実務研修。 20：30 退勤。
2日目	9：50 出勤。10：00 より調理部（和食）にて実務研修（盛り付け等）。2時間休憩。 16：00 より調理部にて実務研修。 20：00 退勤。
4日目	5：50 出勤。6：00 より料飲部にて実務研修（朝食会場準備等）。5時間中抜け。 16：00 より料飲部にて実務研修（バッシング等） 21：00 退勤。

⑤ 報告書より

仕事をする上で一番大切だと思うことは、明るく笑顔で挨拶し、利用者さんはもちろん職場の方とのコミュニケーションが大事だと感じました。また、そうした態度で仕事をするには、体調管理に気をつけ、いつも自分に余裕を持って行動することが、必要だと感じました。自分が張りつめた状態では喜んでいただける介護サービスはできないと実感しました。

（3年生・介護施設での実習）

自分の指示された仕事が終わっても、次に何をしていたか分からず、ただ立っているだけといった場面があり指導していただきました。周りに気を配りながら仕事に当たれなかったことが反省点だと思います。次回はこの点に気をつけたいです。

（2年生・ホテルでの実習）

自分がどれだけ日頃楽をしていたのか、社会へ出て働くということがどれだけ大変か、また責任の重さを、実習を通して感じることができました。普段感じることもない緊張感のなかでの、実習先の企業の方の優しさがとても温かく感じられました。また、自分はとても仕事を頑張ったと思っていましたが、思い返しますと、それ以上に企業の方々の支えがあったからこそやり遂げる事ができたことだと思います。

（1年生・ホテルでの実習）

（3）成果

実習の前後に生徒・保護者・受入企業を対象にアンケートを行った。保護者からは家庭での生活ぶりに変化が見られるなどの意見が寄せられ、実習に対する評価は高い。受入企業の方からは「社員教育のあり方の参考になった」「社員の意識高揚になった」との意見のほか、「多少なりとも戦力となった」との評価をいただいた。

生徒の報告書・アンケートや学校生活を通して見られる生徒の変容は次のとおりである。

- 早朝・夜間を含めた長い期間の実習を通して、最後までやり通す責任感が身についた。
- 実際の職場で上下関係・お客様との緊張した場面を通して、生きたビジネスマナーやコミュニケーション能力が身についた。
- 実習中、チームで作業にあたる場面も多く、協調性や積極性が醸成された。
- 実際の仕事の現場を体験し、自分の将来を真剣に見つめ直すことができ、適切な職業観・勤労観を育む一助となった。

- 自分の進路と向き合う中で、学習の必要性を感じ、授業での姿勢に変化が見られ、また、資格取得に積極的に挑戦するなど、向上心が育った。
- 実習の報告書の作成や、報告会での発表を通して自己表現能力が培われた。



3 国際観光科育成会の取組み

本校は、平成13年より国際観光科を支援する組織として「国際観光科育成会」を有している。実際に社会で活躍されている方を非常勤講師として招き、授業をしていただくことにより、地元の良さを再認識し、生きた知識・技術を習得させることを主な目的としている。授業内容等は次のとおりである。

(1) 1年生：授業計画（講師：ホテル関係者）

- ・観光開発と地域との調和について（校内2時間）
- ・猪苗代の観光資源について（校外計8時間）
- ・テーブルマナー（校外2時間）
- ・猪苗代の観光についての考察・発表（校内2時間）

(2) 2学年

①授業計画（講師：ホテル関係者）

- ・テーブルクロスのかけ方とテーブルセッティング
- ・施設見学、接客の心得、ナフキンの折り方 ほか
（すべて校外計6時間）

②授業計画（講師：ホテル関係者）

- ・土地の食材を活かしたおもてなし
- ・お客様をもてなすサービスとは（すべて校外計4時間）

③授業計画（講師：ホテル関係者）

- ・施設見学、ホテルでの仕事について、接客の心得
- ・ハウスキーピングとその心得
- ・サービス技術について（すべて校外計6時間）

④授業計画（講師：自然保護協会関係者）

- ・国民休暇村近辺・猪苗代湖畔の自然学習 ほか
（校外4時間・校内8時間）

(3) 3学年：授業計画（旅行会社関係者）

- ・旅行業法 ・運賃料金計算について
- ・東北の観光資源について（すべて校内計6時間）

4 今年度以降の取組み

(1) 就業体験（デュアルシステム）

3年間の事業の成果を継続すべく、国際観光科育成会の協力を得ながら、今年度からの就業体験は次のとおり企画・実践した。

① 1年生「ホテル研修」1泊2日の宿泊研修

ホテルに宿泊し、サービスについての講話や施設見学などの研修を行い、かつ、テーブルマナー講習を受ける。きちんとしたサービスを受ける経験を通して、サービス業の基本を知る。

② 2年生「デュアル実習Ⅰ」1週間×1回

早朝・夜間の宿泊をともなう実習。ホテルでの作業を通して、サービス業の本質を経験するとともに技術の習得を目指す。ホテルに限定して実施。

③ 3年生「デュアル実習Ⅱ」1週間×1回

進路希望をよく考慮し、就職を希望する業種の企業で実習を行う。

(2) 国際観光科のカリキュラム

国際観光科の学びについては、議論を重ねてきた。当初は、観光の学びを意識した学校設定科目が多く設けられていたが、生徒の実態との乖離も見られ、科目や科としての目標が達せられないことがあった。

現在は、まず、商業の基礎基本を充実させ、「体験重視型の学校」という本校の特徴を活かし、非常勤講師による授業と就業体験を得ることにより、「望ましい勤労観、職業観」「生きる力」を育むことを目標としてカリキュラムを策定している。

(3) 語学研修

国際観光科1・2年生に対し、県内のブリティッシュヒルズという施設で、語学研修を行っている。1年生の1泊2日「ホテル研修」とともに、猪苗代町からの助成金により実現している行事である。また、校外学習の際、町所有のバスをお借りすることもあり、町より多くの支援をいただいている。

5 最後に

平成17年度に文部科学省の研究指定を受けたことは本校に大きな変化と効果をもたらした。3つの要因があったと思われる。1つは、地域をはじめとする学校を見守ってくださる方々の大きな支援である。2つ目は、辛く長い実習をやり遂げ、「やればできる」ことを実感し、自分に自信を持つことができた生徒の頑張りである。3つ目は、生徒たちの可能性を信じ、働きかけ続けた教員の努力である。

よい方向に動き出した歯車を止めないためには、現状に甘んじることなく、常により良い方策を模索し続けることが大切だと考える。これからも地域に信頼される学校、社会に求められる人材育成を目指し、学校全体での取組みを継続させていきたい。